

**資料名「校歌に思いをこめて」**  
**テーマ（学校を見つめ直し，感謝と誇りを感じさせる工夫）**

学校名（ 海田町立海田西中学校 ）

- 1 学 年 第3学年
- 2 主題名 愛校心 4－（7）
- 3 ねらい 校歌の制作に関わった人たちの願いを知り，自分にとっての校歌の意味を考えるを通して，学校に誇りをもち，協力してよりよい校風をつくろうとする意欲を育てる。
- 4 資料名 「校歌に思いをこめて」（自作資料）
- 5 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	留意点（☆評価の観点）
導 入	1 海田西中学校創立時のことに関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 創立時と現在とで違っているところはどこだろう。</li> <li>・ グラウンドがない／周辺が違う。</li> <li>○ はじめは校歌がなかった。校歌は，どのように作られたのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 創立当時の校舎写真を見せることで関心を高める。</li> <li>○ 「学校通信つくも」，校歌の歌詞を見せ，関心を高める。</li> </ul>
展 開	<p>2 資料1を読み，作曲者の思いを理解する。</p> <p>3 資料2を読み，校歌にこめられた思いを理解する。</p> <p>4 一人一人にとっての校歌の意味を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「二度とない【 】仕事だった」にあてはまる言葉は何だろう。</li> <li>・ うれしい／一生に一度の／やりがいのある／名誉ある（もとの言葉）</li> <li>○ 文章を読んで心に残ったのはどんなことですか。</li> <li>・ 当時の先生たちが一生懸命に作った歌だということ。</li> <li>・ 色やつながりを考えて歌詞が作られていること。</li> <li>・ 遠く離れた地で歌うことを考えて作詞されたこと。</li> <li>◎ 「校歌は，一人一人にとって，ずっと自分の校歌です」とは，どういうことだろうか。</li> <li>・ 行事の度に歌うので，大人になっても覚えている。</li> <li>・ 校歌と一緒に学校や友人のことを思い出す。</li> <li>・ 校歌を覚えていることが，自分がその学校にいた証になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「なぜそう思った」と問い返すことで，校歌は学校がある限り歌い継がれていくものだということを確認する。</li> <li>○ 作詞当時の思いを知ることによって，日頃歌っている校歌の意味について気付かせる。</li> <li>○ 4に関わる意見が出たら，それを生かして次の発問に繋ぐ。</li> <li>○ 小グループを活用して，様々な意見を共感的に交流させる。</li> <li>☆ 校歌のもつ意味を考え，校歌に対する思いを深めることができる。（発言）</li> </ul>

<p>終 末</p>	<p>5 教職員の歌声による校歌（CD）を聴いた後、感想を書き交流する。</p>	<p>○ 海田西中学校校歌を聴こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西中校歌っていいな。</li> <li>・ 思いのこもったこの歌が、自分にとって思い出の校歌になるのだな。</li> <li>・ この歌詞には、最初の卒業生や先生たちの願いがこめられているから受け継いでいかなくては。</li> </ul>	<p>○ 歌声を聴かせることで、現在の教職員も校歌を大切に思っていると感じさせる。</p> <p>☆ 学校の一員として、思いを受け継ごうとする意欲をもつことができる。（ワークシート）</p>
----------------	--	---	---

## 活用に向けたポイント

### 1 生徒の実態

海田西中学校は、創立26年という比較的新しい学校である。学校に古くから伝わる伝統が話題になることはあまりない一方、設立当時のことを知る機会もあまりない。

生徒は、あいさつ運動や美化運動などのボランティア活動に積極的に取り組んでいる。しかし、学校の歴史や受け継がれてきた校風への関心は、未だ高いとは言えない。学校を知ることがきっかけに、海田西中学校の一員としての誇りを持ち、協力してより良い校風をつくりあげてほしいと思っている。

### 2 教材開発及び指導過程の工夫

- ・生徒が行事などの度に歌い、身近に感じている海田西中学校校歌を題材にした。
- ・作詞作曲に関わった人に、創られたいきさつや歌詞にこめられた意味を取材して教材文を作成した。
- ・教職員の協力のもと、校歌の歌詞入りCDを作成した。終末場面で、作成したCDを聴かせ、教師自身も校歌を大切に思っていることを感じさせた。
- ・導入で、創立当時の校舎写真や学校通信を見せ、当時のことに関心をもたせた。

### 3 発問の工夫

- ・校歌が作られたいきさつや関わった人の思いを文章で読ませ、その感想を交流させることによって、校歌が多くの人々の思いをこめて作られたものであることに気付かせるようにした。
- ・作曲者の思いを考えさせるときに、資料文の言葉を一部空白にして、あてはまる言葉を考えさせるようにして、意見が出やすいようにした。

- ・取材の中で聞いた、「校歌は一人一人にとってずっと自分の校歌です」という言葉を生かして、一人一人にとっての校歌の意味を考えさせた。それについての意見を交流することで、校歌が生徒自身にとって大切な歌であることに気付かせるようにした。

### 4 生徒の反応

日頃親しんでいる校歌が題材であるので、関心をもって授業に参加した。また、作詞作曲に関わった人々の思いを素直に受け止め、校歌に対する思いが変わったことを自覚できた生徒が多くいた。

「朝会で、めんどくさそうに歌っていたけれど、申し訳ない気持ちになった。故郷の自然のこと、歌う場面のことなどたくさん考えてくださったのを知って、大切に歌おうという気持ちになった。校歌は、歌えばいつでも思い出がよみがえってくる、3年間の思い出が詰まった誇りだ。」「校歌は大切なものだと感じ取ることができた。卒業しても、ずっと誇りに思える歌だ。もっともっと大切に歌って、これからも自分たちの手で受け継いでいきたいと思った。

### 5 活用に当たってのポイント

今まで知らなかった、校歌にこめられた思いを知らせることで、「自分も思いをこめて歌いたい」「思いを受け継ぎたい」という気持ちを自然にもたせることができた。現教職員の歌声によるCDも効果的であった。

校歌についての気持ちに変化したことで、心をこめて校歌を歌ったり、受け継がれる学校の誇りや校風を意識したりすることができる。授業後に、行事など様々な場面で、生徒の意欲を評価したり学校の誇りを言葉にしたりすることで、愛校心を育てることができる。

## 校歌に思いをこめて

海田西中学校創立当時の学校通信「つくも」。平成元年二月六日付の記事に「みんなで歌い広げよう 我が西中校歌を！ 念願の校歌ができあがりました」とある。学校がスタートして一〇ヶ月後にできた校歌。誰の手によって、どのような思いをこめて作られたのだろうか。当時のことを知っている人に話を聞くことにした。

### 佐伯光信先生の話

海田西中学校設立当時は教員になってまだ三年目、初めての担任を持った年です。

校歌の作曲については、著名な作曲家に依頼するという形ではなく、教師で作曲をするという方針でした。音楽科の私と、専門が音楽だった教頭先生がそれぞれ作曲して、良い方にするということになりました。

詞を見て一時間くらいでメロディーが浮かびました。それを中心に曲を作るわけですが、作曲にあたって、曲調としては威風堂々の中間部分(有名なところ)を意識しました。また変ロ長調(♭二つ)と決めていました。音域的にも男子が歌いやすい調だからです。完成した後は大学の先輩(作曲科)に見てもらい微調整しました。完成まで二ヶ月くらいかかりました。

私が作ったのはバラード調で、教頭先生はアップテンポ調の曲でした。当時の職員全員に聴いてもらって、運良く私が作曲した方が選ばれました。校歌を作曲するという機会は、音楽教師としてもこちらが望んで可能になることではないので、本当に運が良かったと思います。

転勤した後、九年ぶりに再び海田西中勤務になりました。校歌のアレンジが変わっていて、納得できませんでした。「校歌でもあり、私自身の作品でもある。再び戻ってきた縁もある。ベストの譜面(ピアノ楽譜・吹奏楽譜)を残しておきたい。」と思い、専門家に編曲を依頼しました。その結果、私のイメージに近いアレンジになりました。

つくった当初は恥ずかしさでいっぱいでした。今では、「学校が変わった後も、海田西中の近くを通るたび思い出すだろうなあ」と感じています。それまでも、これから先も二度とない、【】仕事だったと思います。

海田西中学校  
学校通信  
第50号 (1・2・6)

みんなで歌い広げよう わが西中校歌を！  
念願の校歌ができあがりました。自分達の母校の校歌として歌い広げ、継承し、  
すゝんで愛校の心を育んでほしいと思います。

海田西中学校校歌

一 輝あふれる日の浦山に  
若き血潮あつく思やし  
いそしみ目指そう 萬き理想

二 白き道の真の道に  
学ぶわれらの真の道に  
たがいの絆かなく留し  
あまえず願う 賢

三 青く広がる安否の道に  
ほほえみ見共にかえ  
あまえず願う 賢

海田西中学校校歌

海田西中学校校歌

## 坂本美恵子先生の話

昭和六三年四月一日、海田西中学校が開校しました。海田中学校から四五五人の生徒と二二人の教員が分かれてスタートしました。

校舎はピカピカに新しいものの、そろってないものがたくさんありました。緑がほとんどなくて、当時の保護者の方の協力で植木を増やしていききました。グラウンド整備が遅れ、2学期になってからやっと工事が始まりました。整地が十分でないために、雨が降るとずぶずぶと沈み、グラウンド端にとめていた教員の車が埋まってしまったこともありました。

校歌ありませんでした。したがって、入学式でも始業式でも「校歌斉唱」することができません。早く校歌を創らなくてはいけない、ということになりました。

なるべく多くの人の思いを入れたいので、まず歌詞を募集しました。夏休みの宿題にしたので、たくさんの方の言葉が集まりました。「夢」「理想」「きずな」「未来」…とはいうものの、歌詞の形にはなっていません。

国語科の教員三人で、歌詞の形に整えることになりました。まず考えたのは、「校歌はどんなときに歌うものなのか」ということです。

学校では、行事の度に歌います。でも、学校だけではないはず。卒業して何年も何十年もたつて、歌うことがあるかもしれません。それは、ふるさとを遠く離れた場所かもしれません。そのときに、母校やふるさとを懐かしく思い出せる歌詞にしたいと思いました。

何十年たつても変わらないのは、ふるさととの自然です。山・川・海、つまり日の浦山、つくも川、瀬戸内海を読み込むことにしました。山の緑、白鷺の白、海の青と、色彩豊かに浮かんできます。そこから、山は高いから理想につながる、川の流れる道筋から道、まことの道ということで学ぶことにつながる、海の向こうには広島があり、平和につながる、イメージを膨らませて、たくさんの方たちから託された言葉を入れていきました。夢を語り、学び、伸びていくという海田西中学校建学の理想を謳う歌詞が形になっていきました。

共に高い理想に向かって

真理を学びながら

お互いを信じ、長い道を進もう

一人じゃない

この学校で共に支え合い、平和を願い学んで

自分の求める世界に

巣立ってゆこう

歌詞を音楽科に渡し、曲をつけてもらいました。教頭先生と佐伯先生がそれぞれつけてくれて、佐伯先生の作曲したものに決まりました。生徒に発表したのは平成元年二月六日です。掃除時間には毎日校歌を放送し、生徒に覚えてもらいました。平成元年三月一〇日、海田西中学校第一回卒業式には全校で歌いました。そのときから二十六年たち、海田西中学校の校歌も、もう何千人という人の校歌になっています。親子二代で歌っている人もいると聞きました。

中学校にいる三年間、学校行事などで繰り返し校歌を歌いますが、いつか必ず、最後に歌う卒業式の日が来ます。卒業すると、まず、歌う機会はありません。でも、その歌は、いつまでも覚えていて、いくつになっても歌えるものです。校歌は、一人一人にとって、ずっと自分の校歌です。

海田西中学校校歌

作詞 海田西中学校

作曲 佐伯光信

一 緑あふれる 日の浦山に

託す われらの 果てなき夢を

若き血潮 あつく燃やし

いそしみ目指そう 高き理想

ああ 栄えあれ 海田西中学校

二 白さぎの舞う つくもの川に

学ぶ われらの 真理まことの道を

たがいの絆 かたく信じ

たゆまず磨こう 輝く叡智

ああ 栄えあれ 海田西中学校

三 青く広がる 安芸の灘に

歌う われらの 平和の詩うたを

集いし健児 共に支え

ほほえみ築こう 伸びゆく未来

ああ 栄えあれ 海田西中学校

# 校歌に思いをこめて

\_\_\_\_年 \_\_\_\_組 \_\_\_\_番 名前\_\_\_\_\_

1 文章を読んで心に残ったこと

2

3 今日の授業の感想を書きましょう。

---

---

---

---

---

---

---

---

授業をふり返って

	はい	どちらかと言え、はい	どちらかと言え、いいえ	いいえ
1 自分の考えを発表したり書いたりすることができた	1	2	3	4
2 いろいろな考えにふれて考えを深めることができた	1	2	3	4